

北のとびら

特集

音楽物語『わが街 深川』

土地の記憶と人の想いをのせて
街に長く愛される作品に

この人に注目

kick

vol. 102

平成26年10月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

アートの子カラを考える

あさひサンライズホール
〈士別市〉

街歩きアート

田園をわたるアートの風に吹かれ
ギャラリー&クラフトショップを巡る
[長沼・由仁エリア]

フォト・エッセイ

穂村 弘

表紙作家の紹介

北川 陽稔



文化活動が盛んな街で 記念となる作品を

全国で3番目の長さを誇る石狩川と、その支流・雨竜川によってつくられた平地に位置する深川市は、人口約2万2000人の、豊かな水田と畑が広がる農業都市です。一方で、6つの劇団、近隣地域の歴史を持つ拓殖大学北海道短期大学のミュージカル創作など、熱心な文化活動が行われている街でもあります。

「10周年記念事業として上演する作品は、深川の特徴をできるだけ盛り込みつつ、高いレベルを目指したかった」と語るのは、「深川市文化交流ホールみ・らい」の館長であり、『わが街 深川』のプロデューサーの一人でもある、三ツ井育子さん。オペラ、あるいは音楽劇のようなものを…と考えて協力を仰いだのが、桜美林大学教授で北九州芸術劇場のプロデューサーでもある能祖将夫さんでした。

能祖さんは、作曲家として歌曲や音楽劇の作詞・脚本を手がけているほか、合唱と神楽とピアノを組み合わせた「神楽オペラ」など、地方の特色を活かしつつ、市民とアーティストと一緒に取り組む作品づくりの経験を持ちます。三ツ井さんと能祖さんの話し合いで、作品は「子どもから高齢の方まで参加できるように」と、音楽と演劇を組み合わせた「音楽物語」に決定。制作・指導にあたるアーティストには、能祖さんと共に神楽オペラの創作に当たった、作曲家の長生淳さん、指揮者の中川賢一さん、ピアニストの白石光隆さんが加わりました。



●特集／音楽物語『わが街 深川』

土地の記憶と 人の想いをのせて 街に長く愛される作品に

「深川市文化交流ホールみ・らい」の開館10周年記念事業として、平成26年11月30日に上演される音楽物語『わが街 深川』。脚本・音楽ともにオリジナルとなるこの作品は、「市民が主役となり、かつ完成度の高いステージ」を目指し道外からプロのアーティストを招聘して制作が進められています。「時を越えて繰り返し上演される作品に」との願いを込めた創作活動と、上演に向けた取り組みをご紹介します。

深川市文化交流ホールみ・らい
開館10周年記念事業
音楽物語『わが街 深川』



日時／平成26年11月30日(日) 15時開演
会場／深川市文化交流ホールみ・らい
(深川市5条7-20)
料金／前売 大人1,000円、子ども700円
当日 大人1,300円、子ども1,000円
問い合わせ／深川市文化交流ホールみ・らい
☎0164-23-0320



特集 音楽物語『わが街 深川』

「せっかく作るのだから、この街で長く愛され、繰り返し上演されるような作品を」と考えた能祖さん。物語の柱を「深川という街」に据え、まずは「人生で心に残ったこと」をテーマに、市民からエピソードや写真を募集。さらに、街を歩き、郷土史を調べ、多くの人に取材し、深川の歴史物語に土地で暮らす人の記憶や想いを重ね合わせたストーリーを創作しました。

「能祖さんが書いた歌詞に寄り添うことを大事にした」という長生さんが生み出したのは、「歌詞が伝わるよう、言葉のイントネーションを活かしたメロディ」と「ピアニストへの信頼から施された多彩な音」を持つ、全30曲。「ドラマチックで、全体を通すと大曲のような聴き応えがある」と、ピアニストの白石さんは言います。

プロの指導・共演で創る
深川ならではのハーモニー

10周年を翌年に控えた平成25年、「み・らい」では、音楽物語の母体となる「市民合唱団」「子ども合唱団」を公募で結成。それぞれ

深川市在住のソプラノ歌手であり、日頃の練習を指導する菊入三恵さんです。情熱的な指揮者・中川さんと楽しい語り口の白石さん、隔月で訪れていた名コンビの的確な指導もあり、今のところの仕上がりは順調とのこと。本番に向けて、10月以降は二人の来道も頻繁になり、「ハーモニーの分厚くて温かいところ、主張のある生き生きとした部分の表現を磨き上げたい」と、中川さんは意欲を語ります。菊入さんを含む3名の地元ソリストによる「聴かせどころ」のソロパートの仕上げも始まりました。

一方で、演劇担当のメンバーも負けてはいません。「長年の活動で培った深川らしい芝居をみせよう」と、地元劇団を率いてきた渡辺貞之さん、桜庭忠男さんの指導のもと、それぞれの公演の合間を縫って集ま



発声を指導する深川在住の音楽家、菊入三恵さん



右から、脚本・演出の能祖将夫さん、ピアニストの白石光隆さん(東京藝術大学、お茶の水女子大学非常勤講師)、館長の三ツ井育子さん、指揮者の中川賢一さん(お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師)、作曲家の長生淳さん(東邦音楽大学講師)

れプロのアーティストの指導を受け、「テノール歌手・村上敏明と市民で創るコンサート」「音楽物語『ダヤンのアベコベアの月』」で、プロと共演する形で成果発表を行いました。そして平成26年5月からは総勢70名が、『わが街 深川』の舞台に向けて、月に2回の練習を開始しています。

「素晴らしい曲であるだけにハイレベル。数も多く覚えるのが大変ですが、得がたい機会をいただいているので、良いものに仕上げようとみんな頑張っています」そう語るのは、



り、練習を積み重ねています。

「三ツ井さんの提示する『深川らしさ』を存分に盛り込んだ結果、作品は当初イメージしていたところから膨らみ、美しくも楽しいものになりました」と能祖さん。縄文時代に作られたストーン・サークルのロマン、開拓の苦労を見つめたハルニレの存在、三本の稲穂から始まったコメづくりの広がり…。ナレーションに導かれつつ、深川の過去・現在を踏まえて展開する音楽物語。ラストは超絶技巧のピアノパートとともに壮大な広がりを見せて盛り上がり、11月30日、街の未来への祝福となつてホールに響きわたります。

kick



インスピレーションを得て、即興的に生み出していく身体表現の世界。「日本的な、内なる宇宙を感じさせる静かな強さを深めていきたい」と、今後の方向性を語ってくれました。

■ 出演予定

11月9日(日) 14:50~15:00
札幌アートステージ2014 キックオフイベント
会場:札幌地下歩行空間(チ・カ・ホ)
問い合わせ:さっぽろアートステージ実行委員会事務局
☎011-281-7117

● Shodo dance project

<http://vimeo.com/68755030>
身体で書道の筆の動きを模し、文字や音楽から受けたインスピレーションを書きに変換する試み。

● Travel dance project

https://www.youtube.com/channel/UCM5Z0WnvZv_CMMrzqf2iyxg
国内外でセルフレコーディングしたパフォーマンスを発信。自然や寺院などでの芸奉納、異国で出会ったパフォーマーやミュージシャンとの非言語コミュニケーションの様子など。

広い可動域から生み出される大きなモーション。素早く足を蹴り出して宙を跳ぶ、力強い動き。「どこに住んでいても鍛えることは平等と信じて鍛え続けた」という個性的な身体を持つkickさん(本名・菊澤好紀)は、格闘技が持つ流れや動きをさまざまなダンスの要素と融合させた表現で注目を集めている、札幌在住のダンサー・パフォーマーです。

22歳でカポエラと出会い、1年間スクールで修業。その後は建築職人として働きつつストリートで踊り、独自の鍛錬を重ねてきました。やがて、ダンサー仲間との交流から、アートディレクターや舞台演出家に名前を知られるように。即興を得意とするパフォーマーとして、数々の演奏家・アーティストとコラボレーションしてきました。今年9月には、札幌国際芸術祭の連携企画『思考の境界』に参加。10月には柳本雅寛さん、東海林靖志さんと共に作品『閃-せん-』で鎌倉ダンスフェスティバルに参加しました。「僕の人生は旅」と語るkickさん。「トラベルダンスプロジェクト」と題し、ガンジス川やヨーロッパの街角、標高1500メートルの山頂などでのパフォーマンスを動画で発信しています。土地、人、音楽やアートなど、さまざまな出会いから

アートのチカラを考える②

あさひサンライズホール(士別市)

a

t

r

士別市朝日町にある「あさひサンライズホール」は、質の高い自主事業を意欲的に行っていることで知られています。設立は平成6年。人口約2000人の旧朝日町の公共ホールとして、当時の町の単年度予算に迫る約26億円を投じて造られました。中核都市である旭川市まで約70キロの距離があり、生活の中で舞台芸術に触れる機会が得られないことから、市民の厚い支持を得ての誕生でした。平成17年に士別市と合併してからは、全市を対象とした文化振興のアプローチを重ねています。

自主事業の柱は、「鑑賞事業」「市民参加による演劇制作」「小中学校へのアウトリーチ」の3つ。鑑賞事業は20年間で320本以上を実施、10年を越えた市民劇の取り組みでは、20作品以上を創作・上演しています。

最も力を入れてきたアウトリーチは、今では市内にある全14の小中学校と市立高校を対象としています。道内外からプロのアーティストを講師として招き、演劇、ダンス、パントマイム、音楽、和太鼓など、毎年10種類ほどのメニューを用意。それを学校側を選んでもらうスタイルで、近年では年間70~90回の講師派遣を実施しています。

ホールの設立準備時から運営に関わってきた館長の漢幸雄さんによると、「最初は『授業時間が少なくなる』など、学校側からの反発もありました」とのこと。けれど一度行えば「子ども達の目の輝きが変わった」「学校祭は

地方にあっても、暮らしたアートがあること。その豊かさがチカラに。



などに活かせる」と、進んで受け入れてくれるようになったそうです。今では先生を対象とした舞台制作やダンスなどのワークショップも実施しており、ホールと学校との連携も深まっています。

アウトリーチについては「やりたい子だけ集めて実施しては」という声もありますが、「地域の全ての子ども達に、本物の文化芸術に触れる機会を与えることが重要」と漢さん。学校へのアウトリーチで目指しているのは、プロのアーティストづくりではないと言います。

「この地域には、一生をここで過ごす人もいます。そのような暮らしの中にもアートがあること、それが地域の豊かさになるんです」。子どもの頃にアートを体験した人は、アートのある暮らしを楽しむようになる。そして自分の子どもにも、アートを体験する機会を作ろうとする。そのように世代を超えて体験を蓄積していくことが大切だと、漢さんは考えています。

「当ホールでの取り組みは、まだ20年です。30年、50年と続けていって、初めて地域コミュニティの豊かさとして花開く可能性がある。そのような継続ができるのは行政だけなんです」。本音を言えば、予算や人材などの面では厳しい現実もあるとのこと。けれど「アートのある暮らしによってコミュニケーションが活発になり、誰もがどこかに居場所を見つけられる熟成したコミュニティ」に向けて、あさひサンライズホールの試みは続けられています。

今年10月からは、20周年の節目を記念する市民参加演劇の制作を開始。平成27年3月に上演予定です。

田園をわたるアートの風に吹かれ ギャラリー&クラフトショップを巡る [長沼・由仁エリア]

イギリスの田園を思わせる美しい風景、
その中に点在する、工房や個性的なギャラリー。
札幌から車で約1時間、
どこまでも水田や畑が連なる長沼・由仁エリアは、近年、
アート・クラフトの里としても注目を集めています。



アートと人との、交流の場

③ ギャラリー アートスペース 慧 (けい)

長沼町内の作家を中心に、30名ほどの作品を扱うギャラリー。陶芸や金属、木工芸など幅広いジャンルにわたります。2004年にオーナーの清水慧子さんが、作家たちへ作品を展示販売できる場所を提供したことから始まり、今年で10周年を迎えました。長沼のアートの拠点として年3回企画展を開催。制作体験などを通して作家と住民の交流の場を作り、まちをアートで活性化したいという思いがあります。12月開催の「あかり展」は、スタンドグラスなどの作品だけで灯されたあかりがロマンティックです。



●長沼町旭町南1丁目1-2
☎0123-88-0414
◎11:00~16:00
◎定休日:不定休 ※要問合せ
<http://www.art-kei.net>

家具とアートのコラボレーション

④ カントリーバーン

家具職人・二宮規一さんと、美香さんのお店。ヨーロッパの農家を思わせる店内には、規一さんが制作するナチュラルな家具と、美香さんがセレクトした雑貨のほか、地元石彫家・野村裕之さんや木彫家・脇坂淳さんなどの、手のひらサイズのアートも並びます。また規一さんはミュージシャンのOKIさんとの出会いをきっかけに、アイヌ民族の楽器・トンコリも制作。道産のエゾマツやトドマツを使い、フォルムを追求したトンコリはオリジナリティに溢れています(※受注制作です)。



●長沼町字加賀団地
☎0123-88-4203
◎10:00~17:00
◎定休日:月曜、その他(不定休)
※要問合せ

懐かしくて新しい、和室のギャラリー

⑤ ギャラリー-teto² (テトテト)

ガラス作家・くまがいマナさんセレクトのクラフトギャラリー。昨年秋にオープンし、自身の作品はもちろん、くまがいさんが実際に使って「いい!」と思ったものだけをセレクトしています。「直接手で触れてもらうことで、その良さを伝えたい」と、くまがいさん。注目する道内外の作家の作品や、稚内市在住の布小物・こぎん刺し作家mpomeさんのポットマットやコースターなど、ここでしか手に入らないものもあります。なにより作品ひとつひとつに対する深い愛情が感じられ、何度も訪れたい空間です。

(※くまがいさん自身は育児中のため、作家活動は休止しています)

●由仁町山樹995
☎0123-86-2969
◎13:00~17:00
◎営業日:土曜・日曜、祝日の月曜のみ(4~11月)
※オープン日不定のため、要ブログ確認、要問合せ
<http://gallery-tetoteto.ldblog.jp/>
(ブログ)



使い込んだものに宿る価値を、形に

② ギャラリー&喫茶 風楽里 (ふらり)

木々に囲まれた小道の奥にたたずむ一軒家。ジャズが流れる落ち着いた雰囲気のカフェです。2階がギャラリーになっていて、手作りの人形や、着物をリメイクした洋服やアクセサリーなどが展示販売されています。これらはオーナーの秋場義明さんが制作し、特に人形はビエロにこだわり、20年以上作り続けているもの。インテリアも、流木や木のかけらをコラーージュするなど、隅々まで手作りのあたたかさに満ちています。冬にはエゾリスが店先へ遊びに来ることもあり、癒しのひとときを味わえます。

●長沼町東9線北2
☎0123-88-4525 ◎10:00~20:00
◎定休日:木曜(祝日の場合は翌日)



風景と陶芸の溶け合う空間

① ギャラリー・喫茶・陶工房 ほん

陶芸家・菅原せつ子さんのギャラリー兼喫茶店。切り盛りするのはご主人の道幸さんです。大きな窓からは長沼の田園風景を一望でき、まるで一枚の絵のよう。天井からいくつも下げられた、天体をイメージしたという作品も風景に溶け込んで見えます。せつ子さんは1982年に陶芸家・元木弘子さんに師事。北海道ではまだ女性の陶芸家が珍しい時代でした。喫茶で使われている食器やテーブル上の容器も、すべてせつ子さんによるもの。身近な材料で作出す釉薬を使った器には、どこか力強さを感じます。

●長沼町西1線北15
☎0123-89-2839
◎11:00~16:00
◎定休日:月曜・火曜
<http://toukoubouhanon.jimdo.com/>



column

北の暮らしの色を、⑥ ガラス作家 西山雪 ガラスに込めて

甘くカラフルな色、透明な空に浮かぶ小鳥たち。西山雪さんのつくり出すガラスには、軽やかな明るさが溢れています。「北欧デザインが大好き」という西山さんは、スウェーデンの工房でアシスタントを経験。「北欧の風土や生活の中で制作に携わったことは大きかった。それに雰囲気は北海道によく似ていて、懐かしさを覚えました」。4年前に故郷の長沼町に帰り、父・西山亮(ガラス工芸家)の工房で制作を開始。今は北欧の鮮やかな色使いだけでなく、北海道の暮らしから感じた色や模様を表現するようになります。「自分の目に気持ちいい色を求めようになりました。ここでの暮らしがそうであるように、より素直なものを作っていきたい」と西山さん。北海道の生活から生まれるデザインと、ガラスの可能性を感じます。

●長沼町東10線南5 ☎0123-88-0187
工房とギャラリー併設。見学・販売は随時。(在室時に、いつでも対応可)
※11月3日まで、札幌芸術の森・工芸館で開催の「さわやかたち」展に出品中



表紙作家の紹介



北川陽稔 写真家／映像作家
Akiyoshi Kitagawa

この写真は6年前に撮影しました。もしかしたら私は今も同じ場所を目指しているのかもしれない。今年は炭鉱遺産で制作を行いました。これからも時間の遡行は続きます。

札幌市生まれ。東京にて映像作家として活動し、短編映画の制作等を行う。作品はアンディ・ウォーホルやガス・ヴァン・サントを輩出したアメリカの映画祭 Ann-Arbor Film Festival において選考上映され、国内映画祭にて入賞。

近年は主にランドスケープや人物をモチーフに、時の多層性を可視化する写真やビデオ作品を制作。

sprawl Inc. 代表として、ミュージックビデオやTVCM等の演出・撮影も手がけている。札幌市と西東京に居住。

[入選・受賞]

- 2004年 42nd Ann-Arbor Film Festival (入選)
- 2005年 第8回調布映画祭 (奨励賞受賞)
- 2011年 キヤノン写真新世紀 (佳作受賞)
- 2013年 第8回写真「1_WALL」(入選)
- 2013年 2013 KAWABA NEW NATURE PHOTO AWARD (入賞)
- 2014年 JRタワーアートボックス (優秀賞)



[主な個展・グループ展]

- 2010年 個展「Water Garden "UTONAI"」(苫小牧イコロの森)
- 2010年 個展「Unknown Northern City」(ギャラリー品品法邑)
- 2010年 個展「Two Sanctuaries」(ギャラリー品品法邑)
- 2011年 グループ展「写真新世紀2011東京展」(東京都写真美術館)
- 2011年 個展「annoski #01 tuie-pira」(Gallery Cosmos)
- 2012年 個展「北川陽稔展 annoski」(Gallery Poetic Scape)
- 2012年 グループ展「写真新世紀 仙台展2012」(せんだいメディアテーク)
- 2013年 グループ展「写真・重力と虹」(CAI02)

◎北海道文化財団アートスペース企画展

北川陽稔展「annoski」

会期:平成26年10月16日(木)~12月25日(木) 9:00~17:00

休館日:土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。

会場:北海道文化財団アートスペース (札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料:無料



フォト・エッセイ ⑥
文 穂村 弘
Hiroshi Homura

四プラの空気

東京で暮らしていて、たまたま札幌出身の人に会うと、嬉しい気持ちになる。「僕、北大にいたことがあるんですよ」と云って、しばらく話が弾む。なかでも、十年ほど前に出会った或る女性のことは忘れられない。藤女子大を卒業して上京してきた人だった。

その彼女に「大学生の時、どこで遊んでました?」と訊かれたので「えーと、四プラの自由市場とか」と答えた。それから「でも、フロアにあるお店、今はすっかり変わっちゃったけど」と付け加えた。

四丁目プラザだけではない。大学の最寄り駅だった北十八条の周辺や、よく散歩した南三条の通りも大きく様変わりした。入学した年の夏、南三条沿いのKチープという古着屋で半袖のシャツを買って、お釣りを貰い忘れたことがあった。信号待ちをしていたら、お店の人が走って届けに来てくれた。あの店も今はない。

すると、彼女が云った。

「でも、自由市場のフロアに、ほむらさんがいた頃の空気は残ってるかもしれないですね」

え?と思った。そんな筈はないだろう。だって、あれからもう三十年以上が経っているのだ。そう云うと、彼女は答えた。

「例えば、江戸時代から続いている鰻屋さんの秘蔵のタレだって、少しずつ足されて入れ替わってゆくけど、でも、今もその中にほんの少しは江戸時代が残ってると思います」

そうか、と納得した。そして、なんだか嬉しくなった。



穂村 弘
(ほむらひろし)
歌人

1962年札幌生まれ。著書に『シンジケート』『手紙魔まみ』『世界音痴』『本当はちがうんだ日記』『よっ記』『絶叫委員会』『君がいない夜のごはん』『蚊がいる』他。ほむらひろし名義による絵本翻訳も多数。2008年より日経新聞歌壇選者。『短歌の友人』で第19回伊藤整文学賞、「楽しい一日」で第44回短歌研究賞を受賞。近刊に絵本『X字架』(絵・宇野亜喜良)がある。

財団事業インフォメーション (平成26年11月～平成27年1月)

アートシアター鑑賞事業

●寄席演芸公演(星)

▷洞爺湖公演

日時:平成26年11月16日(日)14:30開演(14:00開場)

会場:洞爺湖文化センター
(洞爺湖町洞爺湖温泉142番地)

入場料:前売 一般1,500円

当日 一般2,000円

※小中学生無料

問い合わせ:

洞爺湖町教育委員会

☎0142-74-3010



▷豊頃公演

日時:平成26年12月4日(木)18:30開演(18:00開場)

会場:豊頃町える夢館(豊頃町茂岩本町166番地)

入場料:前売 大人1,000円 子ども(中学生以下)500円

当日 大人1,200円 子ども(中学生以下)700円

問い合わせ:

豊頃町教育委員会

☎015-579-5801



▷美深公演

日時:平成26年12月6日(土)

14:00開演(13:30開場)

会場:美深町文化会館COM100

(美深町西町22番地1)

入場料:前売 一般2,500円

当日 一般3,000円

問い合わせ:

美深町文化会館COM100

☎01656-2-1744

若手芸術家発表事業

●COTOHA(コトハ) 大空公演

日時:平成26年12月6日(土)

14:00開演(13:30開場)

会場:大空町議事堂文化ホール
(大空町女満別西3条4丁目
大空町役場庁舎1階)

入場料:500円(中学生以下無料)

問い合わせ:

大空町教育文化会館

☎0152-74-2367



●Duo Traumeri(デュオトロイメライ) 木古内公演

日時:平成26年11月11日(火)

18:30開演(18:00開場)

会場:木古内町立木古内中学校
体育館
(木古内町木古内194番地5)

入場料:無料

問い合わせ:木古内町教育委員会

☎01392-2-2224



文化の宅配便事業

●Ezo'n えりも公演

日時:平成26年11月13日(木)18:30開演(18:00開場)

会場:えりも町福祉センター

(えりも町字本町357番地)

入場料:無料

問い合わせ:えりも町文化協会事務局

(えりも町福祉センター内)

☎01466-2-2526



北海道文化財団20周年記念事業

| 赤れんが月一音楽会 |

会場:北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)(札幌市中央区北3条西6丁目)

入場料:無料 問い合わせ:(公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

▷能登谷安紀子(共演:藪田建吾)

(※終了しました)

日時:平成26年10月12日(日)

14:00開演(13:30開場)



▷COTOHA(コトハ)

日時:平成26年11月22日(土)

14:00開演(13:30開場)



▷トリオアンジュエ

日時:平成26年12月14日(日)

14:00開演(13:30開場)



▷木管五重奏団

ウィンドアンサンブル・ポログ

日時:平成27年1月24日(土)

14:00開演(13:30開場)

